



発達支援だより



2026年1月 向陽台保育園

あけましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。  
いよいよ年度末…皆さん、進級、進学を前に、心配事が増えたり、やるが増えたりする時期だと思ひます。そんな中での今月のテーマは、少し視点を遠くに置いて…

### 「子どもたちが 大人になった時の世界」

少し古いですが、2015年の野村総合研究所のレポートで、「AIなどの進化によって、10年後の日本の労働人口の50%の仕事（職種）が、無くなる」という予測がありました。10年経った今。それらの仕事は本当に無くなっているか、というと、そんなことはないのですが、これだけAIやロボット、システム利用による無人化が進んでいる昨今を考えると、将来子どもたちが職業選択をする時に、存在する職業の種類が変化していることは、容易に想像できます。

筆者は、半世紀以上生きています。50年前、電話は黒電話でした。皆さんご存知ないのでは？数字の丸に指を突っ込んで「ジーコロコロ…」と回すのです。



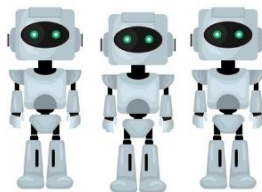
テレビのチャンネルは、ガチャガチャ回していました。リモコンなんてありません。水道からお湯は出ないので湯沸かし器です。



それが、50年経って、通信はスマホやタブレット。電話で話すより、自分の都合のよい時に送れる文字コミュニケーションが主流。テレビは薄く大きくなって、リモコン操作。アレクサに話せばつけてくれるでしょう。お湯は、ボタンを押せば水道の蛇口から出ますね。筆者が小さい頃からは、想像もつかなかった生活の激変です。

今保育園にいるお子さんたちが、大人になる頃…就職するのは20年後くらい？世の中はどんな風になっているのでしょうか？スマホも無くなって、スマートウォッチに吸収される？現金はもはや流通していないのかな。どこでもドアは無いと思うけど(笑)、車は趣味で運転する以外は自動運転？

そんな風に、世の中が変わっていつているのに！今現在、教育は、依然、年齢で区切った一斉教育が行われています。同じ年齢で区切られて、同じ教室で同じタイミングで同じことがきちんとできる人が評価される。工業製品のように、同一規格におさまる人が賞賛される。それは決して、悪い事ではないです。その状況に自分を合わせる力を持っている、という事です。



### 「私たちが大切にしたいもの…」

けれども…実は世の中をどんどん変えていく駆動力になっていたり、たくさんの人を魅了し続ける人の中には、日本の学校教育…皆と同じように同じことができることが評価される世界…に適応できず、苦しんできた人たちが、少なからずいらっしゃいます。例えば、黒柳徹子さん、スティーブジョブズ、米津玄師…。

先日、資格更新のために参加した学術集会で、こんな事例を聞きました。小学生。宿題は漢字の書き取り練習。同じ文字を漢字練習帳に一行分書き続けるスタイルです。それに飽きたお友だち…。



途中で「雨」の点々をあちこち向きを変えて「色んな方向から降る雨」とノートのすき間にコメントを書いたそうです。(左図) その右の「線」のコメントは「切り取り線」。

自由でのびやかな発想と、ユニークさに驚かされ、笑わせてもらいました。それでも、宿題としては×がついてしまう。先生によっては「ふざけるんじゃない」という風になってしまうかもしれません。

**私たちは、これに大きな花丸をつけたいのです** 。保育の中で、こういうのびのびとした、キラキラした発想を、大切にしたい！そう思っています。

学校、保育園で私たち大人が、お子さんに教えることができることは「自分が見てきた、教わってきた事」です。今構築されている世の中での、基礎知識でもあります。けれども、時代はどんどん変わっている中、それだけでいいのでしょうか？それは本当に正解なのでしょうか？(正解や標準、基準なども時代とともに、変わりますよね！) 試行錯誤を促す声かけをしながら、是非、お子さん達が見ている世界、お子さん達の直感やイメージを共有していきたい、そんな風に思っています。

とは言っても、自分の子育てでは…勉強机にでんぷんのりを塗りまくり「乾いたらどうなるのか見たかった」という息子にため息をつき、「鳩にあげたかった」と家のお米を机の引き出しっぱいに隠し持っていたことを叱り、きれいに米櫃に戻しました。自分は息子のキラキラを、たくさん踏みつぶしてきてしまった、という後悔があります。だから、一生懸命伝えてしまうのかもしれない(笑)！



ご一読、ありがとうございました。最後まで読んでくださったことに感謝します。  
発達支援専門家・早期発達支援コーディネーター 藤原 りか